

倫理法人会の会員は、様々な問題に直面した際には純粹倫理の学びを実践に移し、そして前進しています。

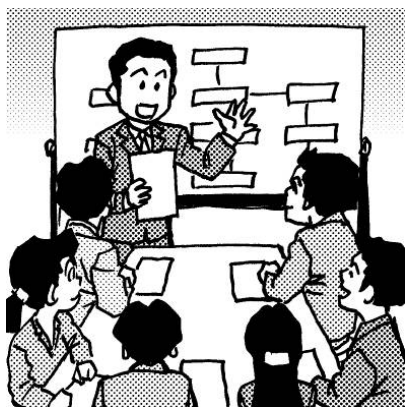
多くの問題の中でも、特に経営者が頭を悩ませるのが「後継者問題」です。現在、倫理法人会では、平成九年の千葉県を皮切りに、新潟県、埼玉県、東京都、愛知県、石川県、沖縄県の七都県にて、企業後継者を対象とした後継者倫理塾を開催しています。その目的は以下の3点です。

創業者の精神を引き継ぎ、倫理経営を正しく理解 実践して、健全な企業経営を推進する
後継者の育成

倫理法人会活動を推進する後継者の育成
倫理実践によって、人間力向上をはかり、地域発展に寄与する人材の養成

ここでは一年間、同じ境遇の後継者たちが共に学び、汗を流し、感動を共有しながら成長するために頑張っています。その運営に携わるスタッフも、何とか塾生に成長してほしいとの思いで、魂を込めた指導・教育に当たっています。

ある県の後継者倫理塾H運営委員長は、ひとときわ熱い思いで塾生の教育に当たっています。月に一度、一泊二日で行なわれる塾は、原則として遅刻・早退・欠席は認められませんが、なぜなら、自社の社員と協力して、塾に参加する時間を確保することも、塾生にとっては大きな学びだからです。入塾の際にすべての日程が伝えられているスケジュールに自分の予定を合わせていくことも、経営者にと



絵・今谷鉄柱

揺るぎない使命感が 後継者の信念となる

つては約束を守る大切な実践なのです。

しかしある日、O塾生はどうしても自らがプレゼンテーションをしなければならぬお客様との約束が、塾の開催と重なってしまいました。H運営委員長は「何が何でも都合をつけて塾に参加しなさい。スケジュールは何カ月も前から決まっていた。その約束を破るなんて、君は後継者、いや社会人として失格だ」と一喝。O塾生はしぶしぶ社員に仕事の段取りを伝えて塾に参加しました。

しかし講義中も食事中も、社員に任せられた仕事のことを気になって仕方ありません。一泊二日のスケジュールが終わり、会社に駆けつけたO塾生。対応を社員に任せてしまったところをお客様に詫言しようと電話をかけたところ、先方からは意外な返事が返ってきました。

「君のところの社員は、準備もしっかりして、対応も明るく、とても好感が持てる。次からはあの社員をうちの担当にしてくれないか」叱られると思っていたO塾生はあっけにと取られました。H運営委員長に一喝され、しぶしぶでも約束を守ったことにより、社内に分の右腕となる人材が誕生した瞬間でした。

ただでさえ時間と労力がかかる人材教育です。後継者の育成となれば、その苦労はなおさらです。しかし、純粹倫理をベースにした倫理経営を行なう後継者を全国で育成していくことは、私たちが目指す日本創生へ向けて避けては通れない道です。知識やテクニクに頼らない心の経営を目指す後継者が、今日も全国で汗を流し、必死に成長しています。